第 161 回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成 30 年 4 月 3 日提出）

１．題　目：多様に進化する学生のニーズに応える大学へ
～義務教育における学びのユニバーサルデザイン（UDL）をヒントに～

２．日　時：　平成 30 年 3 月 16 日（金）　17：00 ～18：30

３．場　所：長崎大学グローバル教育・学生支援棟 4 階　文教スカイホール

４．主　催：長崎大学 障がい学生支援室

５．対　象：学内教職員及び学外者

６．長崎大学ＦＤに関する申合せ第２第１項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）

［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）

平成 28 年 4 月に「障害者差別解消法」が施行され、合理的配慮の対象となる学生が着実に増加しているが、配慮が原則として個別に行われるため、対応に追われ苦慮する教職員も少なくない。そこで、小中学校における「学びのためのユニバーサルデザイン（UDL)」導入例から、大学での UDL 導入に関するヒントを得たいと考える。

本 FD では、障害のある学生のみならず、全ての学生にとってより学びやすい環境を整え、質の高い教育を提供しつつも教職員への負担を軽減することに寄与するところに意義がある。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）

1.　開会の挨拶　17:00－17:05
　塚元　和弘（障がい学生支援室 室長）
2.　概要説明　17:05－17:15
　ピーター・バーニック（障がい学生支援室 助教）

3.　講演　17:15－18:15

納富　恵子（福岡教育大学大学院 教育学研究科 教授）

4.　質疑応答　18:15－18:25

5.　閉会の挨拶　18:25－18:30

調　　漸（障がい学生支援室 副室長）

９．参加者：　89 名（学内教職員 40 名・学生 12 名・学外 37 名）

（内訳）

所　　属	人　　数
多文化社会学部	1
教育学部	2
医学部	2
薬学部	2
工学部	1
水産学部	4
医歯薬学総合研究科	1
工学研究科	2
保健・医療推進センター	6
国際教育リエゾン機構	1
大学教育イノベーションセンター	1
ダイバーシティ推進センター	2
施設部	2
学生支援部	7
障がい学生支援室	6
学生	12
学外者	37
計	89

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）

	長大教職員	外部	計
参加者数 回収数(回収率)	42 30(71%)	47 40(85%)	89 70(79%)
教育職員	16		
事務職員	7		
技術職員	5		
学生	2	10	
教育・保育関係		8	
医療関係		2	
福祉関係		5	
その他		15	

2.年代

	人数	%
20 歳未満	4	6%
20 代	12	17%
30 代	15	22%
40 代	12	17%
50 代	21	30%
60 代	5	7%
70 代以上	1	1%
計	70	100%

3.参加動機について(複数回答可)

	人数	%
自分自身や家族のため	16	23%
仕事上必要なので	30	43%
障がい者の支援等に関心があるから	33	47%
社会的関心が高まっているから	9	13%
その他	3	4%
計	91	
実数	70	

4.講演会をどのようにして知りましたか（複数回答可）

	人数	%
長崎大学ホームページ	12	17%
ポスター・チラシ	8	11%
メール	14	20%
テレビ・新聞等	4	6%
担当者からのすすめ	12	17%
上司からのすすめ	4	3%
友人から誘われて	7	6%
小・中・高校からの通知	0	0%
部局からの通知	7	10%
その他	14	20%
計	82	
実数	70	

5.講演の内容はあなたの期待に合っていましたか

	人数	%
期待した内容でとても良かった	31	44%
まあまあ良かった	36	52%
期待に添わなかった	2	3%
その他	1	1%
計	70	100%

〈以下、アンケートの自由記述欄の設問と回答〉　※貴重なご意見等のため、全文記載

●今後、障がい者の理解及び支援等に関する講演でどのような内容を希望しますか

（難しいかもしれませんが）大学での具体的な支援事例（困難な事例も含めて）の共有。その上での理論的背景との関連。
大学での講義における支援事例があれば、紹介いただきますと助かります。
具体的な障がいの種類に対応した教育の仕方（授業づくり、指導方法 etc）について、例示するような講演内容を希望します。（このような大学生・大学院生にはこのように対応する方法があるといった例示）
合理的配慮を正しく理解していない教員が多すぎるので学部毎に FD をしてほしい。
大学の自閉症学生に対する具体的な支援について。（小中高とは授業の方法も異なってくると思うので、どのような支援が行われているのか知りたいです。）
大学生を対象にした講演を聞きたい。

ピアサポート活動に関するもの。
発達障害等、見えにくい障がいについての講演など。
長崎大学の学生支援室の取り組みをもっとしっかり(実例などを含めて)伺いたい。
インクルーシブ教育
大学内で実際に行われている支援を具体的に教えてほしい。
小学校で支援するにあたって、その児童の心の支えになってあげたいのですが…体が上手く動かない、人と違う自分がいるなど子供たちは高学年になるにつれて悩んでいるようです。心理学系の講演をお願いします。
何も知らないので、何でも役に立ちます。
今日の納富先生の講演をより深く聞きたい。
レジリエンス
UDL についてもっと深く学びたいと思いました。
教育分野以外向け（医療、介護など）へ、共生社会、インクルージョンな社会のための、今日のような研修を希望します
支援の例、教員への協力・周知方法の例
発達障害の子どもたちの「自己理解」の方法について知りたいです。
余暇に関すること
アクティブラーニング実施時の配慮や注意事項など、実践的なヒント。
今回、基礎的なお話だったので、次回は具体的な取り組みや問題点などについてのお話ですと嬉しいです。

●意見・感想

今回この講演が開催される事を新聞記事で知ったので、大学生だけでなく、市民やフリースクールの先生など、いろいろな人たちに広めてほしいと思います。今回の公演を聞くことができて嬉しかったです。現在小 5 の息子は不登校になってしまいましたが、大学生になれる、社会人になれるかもと明るい未来が見えたように思います。
私が小学生の時には、一人ひとりに合わせるというよりかは、同じ方法で分からないと怒られるという恐怖がありました。だから、分かったふりをしてしまったり、分からないまま終わらせていたなと思いました。でも、その方法で分かりにくいかもしれないけど、別の方法では分かるということもあるとのことで、それをすることにより、分かったふりをしていた子が、さらに理解を深めることができることもあったと聞いて、UDL の考え方は素晴らしいなと思いました。
大学の現状について…の講演会と思っていたので参加しましたが、教育関係の方のお話でした。
わが子は 10 年以上前、小学生時代、特に専門性がある先生ではなかったと思うが、

まさにUDLを活かした通常学級で過ごせて（ほぼ小、中9年間ずっと）とても幸せだったと思う。もっと多くの先生方がUDLの考え方を学んで取り入れてくださることを祈りたいです。
長崎でもどんどん広まってほしいです。ありがとうございました。
わかりやすく意欲向上になりました。
とてもためになりました。UDLは障害者だけでなく、生徒全員にプラスになるものだと知りました。これから少しでも自分にできることがあればと思います。
これから役に立つことが多く、今日きいたものを自らの学習のすすめに活かしていきたいと思いました。
私の通っている大学では見たことのない、手話通訳、ノートテイクなどに驚きました。分かりやすかったです。ありがとうございました。
難しく考えずにシンプルに行う。出来る人は、シンプルに行っているだけだと思います。
子どもに従いて、今日ここに伺いましたが、とても感じることも多く、高齢者の心に深く沁みました。
障がいのある人に対して、どのようにしたら関心を持ってもらえるのかなど、改めて考えさせられた。可視化だけでなく、様々な方法があることを知れて良かった。
UDLのことがよくわかりました。とても良かったです。
大学でのUDLの活かし方が分かって良かったです。
UDLという実践的なガイドラインがあることを知れて、大変心強く思いました。より理解を深めていきたいと思います。
参加して本当に良かったです。ありがとうございました。人生にも仕事にも活かしていきたいです。
受講者に手話や要約筆記を必要とする人がいたのかな？手話通訳の手の動きをより明確にするために、少し照明を当てる工夫は？長大生に精神障害以外の聴覚障害者への対応は、福教大のノートテイクのような対応をしているのかな？ 長大のニーズにどう応えているのかを期待していた。
日常生活でもUDLは使えると感じました。とても勉強になりました。
とても参考になりました。UDL、今の教育現場にとても必要であることを身に染みています。本日は指針を得た気持ちです。ありがとうございました。
講演会の内容全て、すごく勉強になりました。
わかり易く、勉強になりました。
大学に対するUDLであればよかった。参考にはなった。
今日のお話に出てきた、UDLをサポートしてくれるようなテクノロジーが長大でも利用できるようになるといいですね。

大学生の実際について、もう少しあればよかったです。無意識と意識をもって行うことの違いが理解できたことは収穫であった。
障害者支援について研究が進んでいることを知ることができました。実際の授業を動画でもっと見てみたいと思いました。
とても良い機会でした。ありがとうございました。

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

講演参加後のアンケートについて 70 名（参加者の 79%）から回答が得られた。回答した方の講演に対する満足度は高かった（「とてもよかった」及び「まあまあよかった」を合わせて全体の 96%に該当）。アンケートの自由記述回答に鑑み、第一の目標であった学びのユニバーサルデザイン（UDL）に対する意識向上は達成できたと思われる。一方、大学での UDL の導入例がまだ少ないことから、具体的にどのようにして大学で実施するかについては、講演会参加者にとってイメージしにくい部分もあったかと思われる。そのため、今後の講演会や講習会では、より実践的な例を取りあげつつ、UDL の導入を推進する必要があると感じた。

また、UDL に限らず、障害のある学生への対応について、もっと深く勉強したい・知りたいという方が多い、ということも回答から伺えた。他に FD・SD を開催しても、スケジュール調整等のため物理的に足を運んでいただける方が限られてしまうので、これからはオンライン等で受講できるような研修も開発・導入できることが望ましいと思う。

１１．実施代表者の連絡先

部　局：障がい学生支援室
職　名：助教　　氏　名：ピーター・バーニック
e-mail：bernick@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：２９４８

１２．申請者の連絡先

部　局：
職　名：　　（同上）　　氏　名：
e-mail：　　内　線：